

第4回 中目黒駅周辺地区 交通バリアフリー推進懇談会 議事録

日時：平成15年3月11日（火）19：00～21：00

場所：中目黒住区センター 2階 第5・6会議室

<凡例> 参加者からの意見 ・ 目黒区からの意見

1. 開会挨拶（省略）

2. 交通バリアフリー推進基本構想案 策定プロセスの説明

3. 中目黒駅周辺地区 基本構想案（たたき台）について説明・意見交換

(1) 駅周辺での放置自転車対策（特定事業-1.）について

放置自転車対策のメニュー、他の成功事例はあるのか？

・ 他の事例などをまとめている。

放置が多い場所に一人いると自転車が減る。効果があるのでいいのではないか。

・ 区・住民の方の協力で進める必要がある。

・ 放置自転車ゼロを目指していく（区長）。

GTの駐輪場の全部は使われていない。暗渠の上はマナーが悪く、すぐに人が通れないくらいになる。

GTはどのくらいの利用度なのか？

自転車に必ず名前を書くようにしては？

ルールではなく条例をつくれぬか？交通バリアフリーの地区に選ばれたので特別に指定できないか？条例はお金もかからずすぐにできるのでは。

自転車の事故は起きていないのか？

・ 関係課では把握しているはず。条例があり禁止区域、撤去料のきまりがある。次回、詳細をお示しする。

歩道を広くしてもすぐに放置自転車で埋まるのでは？

・ 区としては地区ごとに協議会を立ち上げているところである（都立大：設立予定、自由が丘：設立しているが放置は減っていない）。

“バリアフリー”の課題の重要性はどのような順か？

・ 自転車対策＝バリアフリーでない。法では段差・勾配（駅と施設を結ぶ間）など移動の円滑化を目指すことになっている。

・ 段差解消・手すり設置で安全に歩ける道を目指していく。ハード（ものをつくる）、ソフト（心の面）で取組んでいく。この会で話していき、広がることでバリアを除くことになる。

・ 自転車そのものの利用、乗り入れのエリア規制をし、条例化してはどうか。

(2) 全体を通して

中目黒のEVは健常者ばかり使っているのでは。

・ 誰が使ってもいいが、障害者等にはゆずってほしい。有効に使っていてほしい。

段差は昔からあり、家の中にもある。命にはかかわらない。自転車は命にかかわるくらい危険なので、段差より自転車が重要では？

高齢になると足が上がりなくなってくる。段差を是正して欲しい。

駅から GT への階段は雨の日滑りやすいので直して欲しい。

- ・ 区から直すことについて意見が出たことを伝えていく。

視覚障害者として 2 cm の段差は確保してほしい。整備してから直すのではなく、最初から確保した方がいい。

3.5mの幅員のうち、1.0mフラット残り 2cm 段差としてはどうか？（車いす 1 台分）

主要経路を追加、もしくは区域の見直しを（目黒区北側について）

GT タワー周辺：誘導ブロックを JIS 規格に変えてほしい。

商店会によって参加人数にバラツキがあるのでは。

- ・ 町会、住区などの“代表”という形での参加を考えている訳ではない。出席している人には必ず案内、議事録を送っている。

(3) 体験調査について

障害者の方は視覚・肢体両方か？健常者も車いす、アイマスクなどを体験してはどうか？

参加者が少ないのでこれでは調査にならないのでは？

- ・ それぞれの住区などで呼びかける必要がある。20 人程度は目安と考えている。
年中通っている道を歩いても意味がないのでは？危ない場所はすぐに指摘できる。わからない人だけ体験すればいいのでは。

高齢の方と一緒に歩き体験しないとわからないのではないか？

平日は仕事のある人が参加できないのでは？

土日の方が歩行者・自転車が減ることは加味しておく必要がある。

- ・ 5月 土曜日 日程は事務局で決める。

様々な年齢層から参加してもらった方が良い。大人だけでなく子どもも。

- ・ これまで懇談会参加者へは案内を送る応募用紙などを同封する。

当日車いすは用意してもらえるのか？

- ・ 数台は区で用意する。

人数が多い場合はどうするのか？

- ・ 時間をずらすなど臨機応変に対応する。

構想づくりのバックデータとするならば特定経路の全路線を入れるべきでは（菅刈公園、共済病院）。

4. 今後の予定について

- ・ 5/20 号の区報で構想案を公表予定。同時期の懇談会にて説明する。
- ・ 5月に体験調査を実施する。
- ・ H15 年度は 1,2 回の開催を予定。12 月頃を目標に基本構想をまとめ、1,2 月に公表を予定している。

5. 閉会挨拶（省略）

以上